

祝日本遺産 石見神楽



三瓶山神代神楽社中
いんべやまのついでにいんべやま

設立 1897年頃 (奥飯石流神楽) 所在地 大田市三瓶町志野
市内唯一の神代神楽。地元の小中高生が多く在籍し活動



宅野神楽団
たくのかがりだん

設立 2012年 (奥飯石流三瓶系神楽) 所在地 大田市仁摩町宅野
宅野子ども神楽OBが中心。伊勢大神楽や上方歌舞伎の影響も



宅野子ども神楽保存会
たくのこどもかぐらぞんかい

設立 1760年頃 所在地 大田市仁摩町宅野
270年の歴史。小中学生が正月に行う。大田市無形民俗文化財



多根神楽団
たねのかぐらだん

設立 明治中期 (奥飯石流神楽) 所在地 大田市三瓶町多根
六調子の優雅な舞。七座七種の能舞18番。大田市無形民俗文化財



土江子ども神楽団
つちまこどもかぐらだん

設立 2000年 (奥飯石系神楽) 所在地 大田市長久町
正月の仮屋行事として約300年の歴史。創作演目や海外公演も



石見神楽温泉津舞子連中
いんべやまのついでにいんべやま

設立 1997年 (浜田系八調子神楽) 所在地 大田市温泉津町
石見神楽のなかった温泉津町で結成



大江高山神楽社中
おほえたかやまのかぐらしゅらちゆう

設立 1948年 (浜田系八調子神楽) 所在地 大田市大代町
神楽好きの子供たちへの指導により市内各地から参加がある



大屋神楽社中
おほやかぐらしゅらちゆう

設立 1864年 (奥飯石系石見神楽) 所在地 大田市大屋町鬼村
出雲神楽と石見神楽の折衷的舞「オペラ石見銀山」に出演



忍原地頭所神楽団
おしのちがしらのかぐらだん

設立 2016年 (広島系八調子神楽) 所在地 美郷町小松地
川合町の忍原神楽団と美郷町の地頭所神楽団が復活



刺屋神楽団
さやがかりだん

設立 1979年 (奥飯石流六調子神楽) 所在地 大田市久手町刺屋
奥飯石流の優雅な六調子の舞を継承し、地元中心に活動

大田市の神楽(これらがら)盛り上げていけばいいでしょうが。」「昔からの神楽の伝統を大切にしながら、今のことを考えていく必要があります。神楽はもともと地元のお宮の祭りで、氏子さんたちが舞って、地元の人たちが喜んでいました。今でも元々の神社の例大祭での神楽奉納は大切にされていますが、神楽と観客の距離の近さ、あのお宮の雰囲気を守っていかないと、かなざいと思ってしまう。」「一方、観光協会が立ち上げた「大田市版DMO」の中で神楽のワーキンググループができ、時代のニーズに応えていく必要もあります。パリエーションが豊富という大田市の神楽のよさが、観光で来た方にも伝わる工夫をしたいですね。」

温故知新、ダイナミックに進化を続ける石見神楽に今後目が離せません。近年では瀬戸内高校に石見神楽部ができ、活発に活動している。温泉津の福光海岸で開催される「海神楽」が話題を呼び、オペラ「石見銀山」が東京文化会館で上演されるなど、新たな動きが起きています。大阪では今年4月に石見神楽なにわ館が誕生、東京では石見神楽東京社中が活動しており、県外でも観る機会が多くなっていますのでぜひご覧ください。

「大田市の神楽は、一言で「神楽」といっても舞が全然違うんです。浜田系、出雲系、広島系、奥飯石系など市内に様々な系統の神楽があるのが特徴ですね。」

「メインは年に1度の神楽公演「白銀の舞」の開催です。もともと交流があまりなかった市内の団体が集まって公演をしてみよう、というところから、連盟自体が発足しています。このほか定期公演をしたり、公演依頼を受けたりしていますね。連盟で公演依頼を受けて県外に行くこともあります。その際は各神楽団に声をかけてメンバーを集めるのですが、舞が似ていては浜田と違い、各神楽団の舞が違う大田市では事前に練習をしておかないと上演できません。ですのでぜひご覧ください。」



「日本遺産」は地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産」として文化庁が認定するものです。令和2年度までに100件が認定予定で、大田市では「火山からの贈り物」・「石見銀山街道を往かた」の日本遺産認定を目指しています。



写真について
今回の石見神楽の写真は全て阿礼(加島美知)さんによるもの。平成30年仁摩図書館で行われた「躍動!大田市の石見神楽展」を元としています。

石見銀山神楽連盟で大田市の石見神楽を紹介するウェブサイトができました。ぜひご覧ください。
<https://sites.google.com/view/wantkagura/>